

2019年2月15日 全4頁

# 離脱協議方針が否決され窮地に陥るメイ首相

## 党派問わず合意なき離脱を警戒

ユーロウェイブ@欧州経済・金融市場 Vol. 120

ロンドンリサーチセンター  
シニアエコノミスト  
菅野泰夫

### [要約]

- 2月14日、英国議会は、政府の離脱協議方針に関する動議の審議・採決を行った。離脱協定を再交渉するメイ首相のアプローチに対し支持を求める政府動議は賛成 258 対 反対 303 で否決された。離脱交渉における修正代案（プラン B）に対し、議会在が相応の拒否を示したことになる。
- メイ首相は議会で声明を発表し、2月26日までに修正された離脱合意を議会に提示することができなければ、再び離脱協議方針に関する声明を出し、翌2月27日に議会在がこの声明について審議・採決を行うことを約束している。交渉期限の延長を求める親欧州派議員にとっては、EU への延長要請を政府に求めるための法案作成の日数を考えると、この日の採決が正念場となろう。
- 今回の政府動議は法的拘束力がないため、今後メイ首相は2月末までにEU側との協議に再度臨む予定である。ただメイ首相は先週までにEU側と一連の協議を行ったが、首相が求めるバックストップへの修正については、ほぼ進展が見られていない。あくまで想定上の事態であった合意なき離脱の可能性が現実味を帯びてきたことに恐れをなしたのか、強硬離脱派の筆頭であるジョンソン元外相は、バックストップに法的な終了期限が付与されれば、離脱合意を支持すると発言し、合意なき離脱をも辞さないとした持論からのトーンダウンを見せている。

## メイ首相の離脱合意方針は否決

英国の EU 離脱（ブレグジット）期限が迫る中、離脱合意の受け入れを巡る英国政界の混乱は依然として続いている。英国議会は 2019 年 2 月 14 日に、政府の離脱協議方針に関する動議の審議・採決を行った。同動議の内容は、1 月 29 日の議会採決にて示された EU 離脱へのアプローチを支持し、離脱合意修正に向けた EU との協議に改めて 2 週間の猶予を求めるものである。メイ首相は、1 月 15 日に議会在離脱合意の受け入れに関する意味のある投票（Meaningful vote）で歴史的な大差で否決したことを受け、懸念となっている北アイルランドのバックストップについて、離脱協定の法的拘束力のある変更を EU に求めるなど、修正された離脱合意に対し、改めて議会の承認を求める方針（代案、プラン B）を示していた。

修正案も含めた議会採決は順次行われ、離脱協定を再交渉するメイ首相のアプローチに対し支持を求める政府動議は賛成 258 VS 反対 303 で否決された。離脱交渉におけるプラン B に対し、議会在相応の拒否を示したことになる。保守党の離脱派議員は、政府動議は合意なき離脱の可能性を排除することを示唆することになるとして反発し、今回の採決を棄権している。これは、1 月 29 日の採決で離脱合意を修正するとの動議に対し、「合意なき離脱を拒絶する」との修正案が可決されたため、EU との交渉における切り札を失うことを恐れたためと言われている。

## 次の議会採決予定は 2 月 27 日

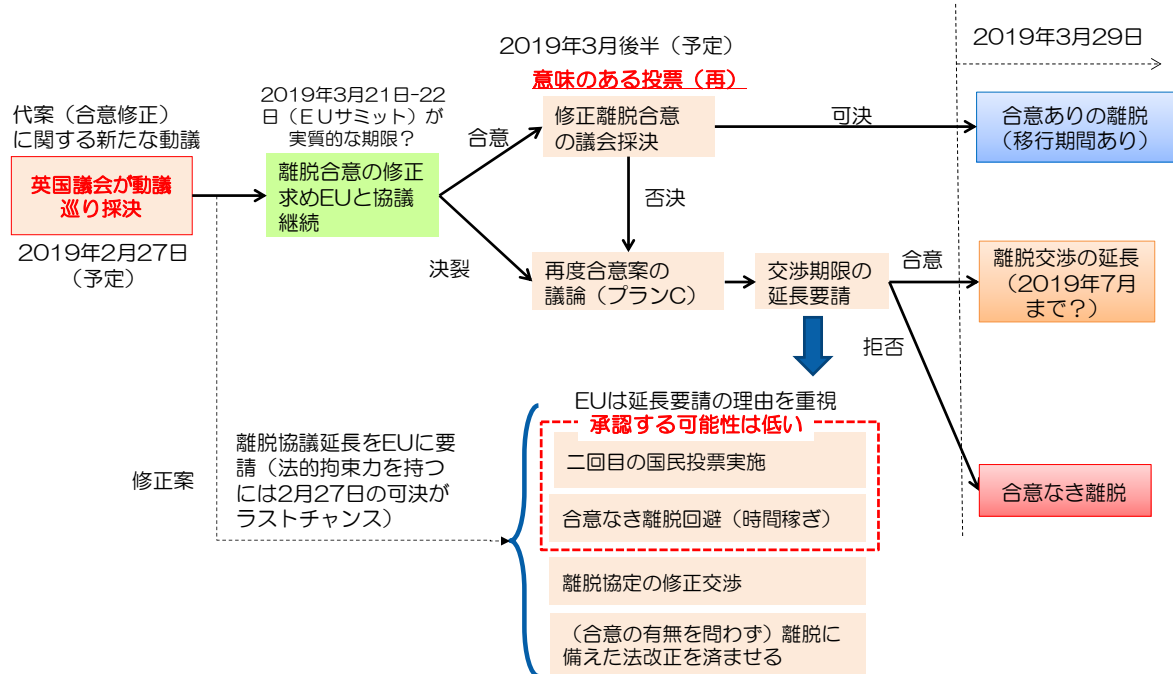
今回の動議では、労働党の修正案および、離脱期間の 3 ヶ月延長を求めるスコットランド国民党（SNP）の修正案<sup>1</sup>も共に否決されている。特に労働党（コービン党首）が提出した修正案は、2 月 27 日までに離脱合意の準備ができていなければ、審議・採決を行うよう政府に求めるものであった。既にメイ首相がこれを約束しているものの、書面にてこれを示すように求めるもので、与野党間における不信感の高さを示している。採決に先立つ 2 月 12 日、メイ首相は議会で声明を発表し、2 月 26 日までに修正された離脱合意を議会在提示することができなければ、再び離脱協議方針に関する声明を出し、翌 2 月 27 日に議会在この声明について審議・採決を行うことを約束している。

交渉期限の延長を求める親欧州派議員にとっては、EU への延長要請を政府に求めるための法案作成の日数を考えると、この日の採決が正念場となろう。親欧州派の労働党・クーパー議員ら議会在重鎮は、2 月末までに修正合意が提示されなかった場合に議会在ブレグジットプロセスの主導権を握る方策を（2 月 27 日の修正案に乗せることを）再び画策している。誤って合意なき離脱に陥ることがないように、議会在安全弁となることを目指す。ただ、首相官邸は、3 月 21 日、22 日のサミットで EU から譲歩を引き出し、同月最終週に修正された離脱合意の議会在での受

<sup>1</sup> 労働党の修正案は 2 月 27 日までに EU 離脱法 13 条に基づく動議を提出するか、EU との交渉においてもはや合意はないことを書面で明らかにし、27 日までにその後の方針についての動議を提出する（賛成 306 VS 反対 322 で否決）。SNP の修正案は、離脱交渉期間を少なくとも 3 ヶ月延長する（賛成 93 VS 反対 315 で否決）。

け入れを問う意味のある投票を行う可能性を排除していない。その時点で、メイ首相は議会に対し合意の受け入れか、合意なき離脱かの究極の選択を求めることになる。

図表 1 EU 離脱協定、今後のシナリオ予想



(出所) 大和総研作成

## 党派問わず合意なき離脱を警戒

メイ首相は、これまでに、離脱協定の受け入れにどのような修正が必要なのかを諮るために、超党派での協議を実施している。その結果、バックストップへの懸念に鑑みれば、法的拘束力のある変更を求めることは妥当であるとし、2月に入り欧州委員会のエンケル委員長や、トゥスク EU 大統領との協議を行っている。メイ首相は、バックストップを時限措置とするか、英国が一方的に反故にする権利をつけるか、あるいは代替措置とするかの修正を EU に求めていると 2 月 12 日の閣議で説明している。

ただ EU は、法的拘束力がない政治宣言の修正には前向きに応じる可能性があるが、バックストップに対し新たなアプローチを求めるような離脱合意の修正は拒否する意向を堅持している。またメイ首相は先週までに EU 側と一連の協議を行ったが、首相が求めるバックストップへの修正については、ほぼ進展が見られていない。合意なき離脱か、交渉期限延期かを問われても、メイ首相は「合意なき離脱を回避したければ、合意を受け入れるべき」「可能な限り早く修正離脱合意を勝ち取ってくる」と繰り返すのみである。これまで、離脱交渉の駆け引きの道具として、あくまで想定上の事態であった合意なき離脱の可能性が現実味を帯びてきたことに恐れをなしたのか、強硬離脱派の筆頭であるジョンソン元外相は、バックストップに法的な終了期限

が付与されれば、離脱合意を支持すると発言し、合意なき離脱をも辞さないとした持論からのトーンダウンを見せている。さらに、合意なき離脱の可能性を排除しない限り、超党派での協議には応じないとしてきた労働党のコービン党首は、2月に入ってからようやく態度を軟化させ、離脱合意支持のための条件についての書簡をメイ首相に送り、与野党トップの歩み寄りにより膠着状態の打開への希望が報じられた。しかし、コービン党首は離脱後も関税同盟へ英国全土が残留することを条件の一つとしていたため、メイ首相のレッドラインである英国独自の貿易政策の確立に反するものとして、再び意見の相違が浮き彫りになっている。

強硬離脱派の議員は合意なき離脱によるダメージについての予想は誇張されたものであり、45年に及ぶEUと英国との経済や規制面での結びつきを断ち切ることによる混乱を軽減することは可能と主張しているが、それでも合意なき離脱を選ぶことは、政治的には大きなリスクといえよう。今回の政府動議は法的拘束力がないため、今後メイ首相は2月末までにEU側との協議に再度臨む予定である。首相周辺は、法的拘束力のある期限をバックストップに付与することさえできれば、穏当な離脱派議員の支持を勝ち取ることができると読んでいる。特に DUP はバックストップが暫定的措置であることを法的に確約されれば離脱合意を支持することを示唆している。ただ離脱協定について再交渉はしないという姿勢を一貫させているバルニエ首席交渉官を見る限り、2月中に目立った成果は期待できない。このため、2月27日に再び今後の離脱協議に関する議会採決が行われることはほぼ確実である。この日の採決でも否決されることが起これば合意なき離脱の可能性が一段と高まると言っても過言ではない。

(了)